

新幹線駅周辺整備に ものづくり都市のさら 自立都市 越前市



奈良俊幸越前市長

自民党公認の勝利と本県自民党が結束。山崎正昭自民党県連会長と盟友の池端昭夫農協五連会長の御曹司が担ぎ出された。自民党公認候補として擁立すれば衆院選時のように追い風に乗り勝算ありと、森喜朗元総理も応援に駆け付けたが、結果は無所属の奈良俊幸に大差を付けられ敗退。

奈良俊幸市長誕生には、武生市議会の重鎮、故宮本義利氏や故石本幸夫氏、福田修治氏の3氏の強烈なバックアップに、労組票や民社、社会党系（現在の立憲民主、国民民主党



6月定例市議会の初日
出馬の意向を表明する奈良俊幸市長

の組織票。さらに、経済界のドン三村義雄オノダニグルーブ社主が奈良支持に鞍替えし、勢力が一気に逆転。自民党王国福井の歴史の中でも特筆すべき敗北だった。

あれから16年。反奈良派は二の舞を踏むわけにはいかないと、満を持して山田前副知事を擁立。先輩の石塚元副知事とタッグを組んで一気呵成支持を広げ勝利に突き進む目論見だろうが、先の鯖江市長選で1年前から準備を進める田村候補が知事や県会自民党が全面支援しながら落選して

いる。越前市長選も自民党県連の意地とメンツが災いしなければ良いが。

山田氏は杉本県政に変わるや、県副知事を辞任し、県立大学理事長に天下り。旧今立町出身だが、県職員として長らく福井市に居住し、働き盛りを過ぎた年配者。さらに旧武生市民には無名で知名度は低く、後援会頼りの市長選では勝てる要素が見当たらない。

ある市民は「副知事の力を借りねばならないほど越前市は落ちぶれているのか」と憤慨する。市長選初挑戦の山田氏の出遅れ感も拭えず、選挙戦にどれだけ市民を巻き込むかがカギとなる。

久々の有力対抗馬と戦う奈良市長は三村社主や中西幹事長の大物後盾を亡くし初当選同様とはいかないだろうが、緊箍一番、迎え撃つしかない。4期の経験と功績を前面に出し「相手に不足なし」と、現職の強みを見せつける。

〈越前市長選展望〉 なる躍進を目指す奈良市長 に役人市長は不要!



山田賢一氏

3カ月後に迫る越前市長選は、59歳現職の奈良俊幸氏と62歳新人の山田賢一前副知事の一騎打ち！副知事の力を借りねばならないほど越前市は落ちぶれていない！市民党対自民党、合併初の市長選を上回る熾烈な争奪戦が展開される。

負んぶに抱っここの相手に不足なし!

奈良俊幸越前市長が6月定例市議会の初日、提案理由説明の最後に「北陸新幹線『越前たけふ』駅周辺のまちづくりを引き続き推進していきたい」と、5期目を目指す意向を正式に表明した。

一方、昨年11月に市社会福祉協議会前会長の織田桂蔵氏、元今立町長の辻岡俊三氏を中心に「市長多選による弊害の打破」を目的に、新人候補擁立を目指す市民団体「市政刷新協議会」を発足。設立総会には市民約200人が集まったが、候補者選びは遅々とし

て進まなかった。

対抗馬擁立は頓挫し今回も現職再選かと思われたが、水面下では前副知事で県立大学理事長の山田賢一氏擁立の動きが取り沙汰されていた。

5月末、先の知事選や次期参院選の福井市保守系議員の結束力に感化されたのか、越前市議会有志が山田氏支持を表明する署名簿を作成し、出馬を求めることが分かった。だが、越前市議会は2名以上で会派結成が認められていて、2年持つか持たないかで合流分裂の繰り返し。少数会派が乱立する中、福井市議会のように一枚岩で現職市長に挑むのは相当無理がある。

議長も中立のため会派を離れてはいるが、革新系の市民ネットワークの三田村輝士市議が就いている。市議の過半数の署名が集まるというが、保守系市議をまとめ市長選を戦うほどのリーダーが存在するのか、甚だ疑問である。

水面下で反奈良派による山田氏擁立が既定路線として着々と進められ、石塚博英元副知事を頭に盤石の態勢で選挙戦に突入するシナリオが決まっただけで、市議有志の署名はパフォーマンスに過ぎないようだ。

山田氏は県立大学理事長を辞任し、「市議有志の要請もあり、これだけ市民が望まれるなら」と、多選の弊害を武器に、7月5日ようやく正式に出馬表明した。

平成17年11月、今立町と武生市が合併し、越前市が誕生。初代市長選は衆院選で自民党大勝利のなだらけ現象の兆しがあり、小泉ブームに乗っかり

議長も中立のため会派を離れてはいるが、革新系の市民ネットワークの三田村輝士市議が就いている。市議の過半数の署名が集まるというが、保守系市議をまとめ市長選を戦うほどのリーダーが存在するのか、甚だ疑問である。

水面下で反奈良派による山田氏擁立が既定路線として着々と進められ、石塚博英元副知事を頭に盤石の態勢で選挙戦に突入するシナリオが決まっただけで、市議有志の署名はパフォーマンスに過ぎないようだ。

山田氏は県立大学理事長を辞任し、「市議有志の要請もあり、これだけ市民が望まれるなら」と、多選の弊害を武器に、7月5日ようやく正式に出馬表明した。

平成17年11月、今立町と武生市が合併し、越前市が誕生。初代市長選は衆院選で自民党大勝利のなだらけ現象の兆しがあり、小泉ブームに乗っかり